

第6回里山研修会報告

日 時:2020年2月9日(日)

場 所:仁志の森 (ときがわ町)

参加者: 14名

報告者: 河野 満

暖冬による影響なのか、今年は木々の芽のほこりびが例年より早い気がします。しかし第6回里山研修会はこの冬一番の寒さの中行われま



した。講師は辰尾さん、本田さん、服部さん。研修場所は定期的に作業が行われている仁志の森。毎月ここで作業に参加する強者の中での講師はちょっと大変だろうなと、ほんやりと考えていました。

まずは辰尾講師による、ときがわ町の変遷と仁志の森の概要です。集合場所のせせらぎホールで座学から始まりました。講義場所はホール内の自動販売機コーナーで、40人くらい座れるイスとテーブルが設置されています。暖房は入っていませんが室内で静かなのと、何より風がよけられるのでじっくりお話を聞くことが出来ました。

ときがわ町の成り立ち、森も川もあり西川林業地と地理的・地形的条件が変わらないのに西川材の産地とならず、違った形で林業と関わってきたこと、燃料革命による衰退の中で都幾川の建具の基盤を作ってきたことなどの説明をいただきました。

また、1300年前に創建された慈光寺は最盛期には75もの僧坊を擁していたこと、慈光寺の建立にかかわった全国の工匠が土着し高度な木工技術が伝わったことで、ときがわが木のむらを標榜し建具のまちとなったこと等、わかりやすく説明していただきました。

ときがわには何度も通いましたが、知らないことばかりでした。

また仁志の森について、活動の記録などから「森林インストラクターの森」の概要をまとめ、植樹の記録を年ごとにピックアップして頂きました。仁志の森にはH14年からH31年までに、ヒノキ800本、広葉樹1063本以上が植樹された事が明らかになりました。

二人目の講師は本田さんによる仁志の森 冬の樹木観察。仁志の森の地図をご用意いただき、その地図に歩道と主な樹木をプロットした資料、樹肌と冬芽の写真に特徴をまとめた資料を用意し案内していただきました。

スギやヒノキに囲まれた広葉樹の仁志の森は、この時期ほとんどの



カラスザンショウ

樹木が葉を落としているためぽっかり開けた空間となっています。花も葉も無い時期は樹皮と冬芽が頼りですが、冬芽はちょっと苦手、なかなか覚えられません。それでも資料を見ながら説明いただくとその場では覚えた気になるものです。

それにしても 2000 本弱植樹したのに生き残っているのは 1 割に満たないでしょうか。もちろん、成長して間伐したものもありますが、動物の食害によるところが主因でしょう。以前から携わっている方によると、シカなどの食害で 1 年持たずに全滅した樹種が沢山あるとの事。シカの好みの樹種ばかり残るのも残念なので、数年前から植樹と同時に食害防止のサプリガードを設置しているのだそうです。

最後は服部講師による、仁志の森のセンサーカメラで撮影された野生動物の説明です。

森に生息する哺乳類、鳥類の説明は、用意していただいたパネルやタブレットの映像を見ながらで、とても楽しめました。出現数と時間のグラフでは、野生動物の活動がほぼ日没から日の出までの時間に集中しています。夜行性の知識はありますが、データが見事にそれを表わしていました

また、シカやイノシシの生息数のグラフを見るとその数は年々増加していますが、反対に急速に数を減らしているグラフが描かれています。まさに絶滅危惧種と言えるほど数が急減しているグラフの主は、なんと猟師だそうです。その現役猟師も高齢者が圧倒的で、この先さらに急減する可能性の高さを表しています。野生動物の食害が問題になっていますが、間違いなく猟師の激減が一因でしょう。



デッキでの昼食後、今回の研修や今後やってみたい事についての意見交換がありました。会員が参加しやすい企画、一般の方や地元との交流、植物同定会、研修資料の活用、動物映像の保存方法など様々な意見が出ました。仁志の森活動の集合場所も電車では不便なことから、駅から送迎等のアナウンスをして、多くの会員が参加できる企画を理事にお願いして研修が終了しました。今後、多くの会員が参加しやすい・参加したい企画を皆で考えて、埼玉会を盛り上げていきましょう。今回の研修は盛沢山で、とても実りのある研修会でした。講師の方々が皆しっかりと準備していただいたおかげです、本当にありがとうございました。